

田中逸平書誌

坪内隆彦

凡例

一 本書誌は、二〇〇一年七月現在で確認できた田中逸平の著作の目録である。

二 「新聞・雑誌」、「書籍」、「未確認」に分類した。

三 「新聞・雑誌」の記述方法は、論題名、媒体名、発行年月(日)の順である。

四 号「天鐘」を用いたペンネーム(天鐘生等)名での著作は、論題名の前に発表名を記載した。

五 「未確認」には、金子登編『天鐘田中逸平先生追悼録』大東文化学院志道会並細亜部、一九三七年に挙げられてい

る著作目録のうち、掲載媒体、掲載年月日のいずれかが不明のものを記載しておいた。

新聞・雑誌

「山東の過去現在将来」『山東公論』大正六年七月

「魯山の上に立ちて」『山東公論』大正八年二月

「官民の無覺醒と所謂對文文化政策」『山東公論』大正九年六月

「十度泰山の上に立ちて」『日本及日本人』大正九年七月

「水滸傳奇と梁山泊考」『日本及日本人』大正九年九月

「支那回教問題の將來と皇國神道」『山東談叢』大正九年九月

「閔子騫の墓を弔ふ」『山東公論』大正一〇年一月

- 「漢文廢止問題を中心として」『日本及日本人』大正一〇年三月
一五日
- 「袁了凡と支那の社會及個性」『日本及日本人』大正一〇年九月
二〇日、秋期特別號
- 天鐘道人「孝堂及び武梁石堂」『日本及日本人』大正一〇年八月一日
- 「盛捷婦人と青島」『山東公論』大正一〇年八月
- 「糸瓜亭獨語」『山東公論』大正一〇年八月
- 「對支阿片政策と日本亡國」『日本及日本人』大正一〇年九月
- 「糸瓜の棚を撤する日」『山東公論』大正一〇年十一月
- 「天ぶら食過記」『山東公論』大正一〇年十一月
- 「山在秋色」『山東公論』大正一〇年十一月
- 「鄭玄の故里を訪ねて」『斯文』大正一一年二月
- 「管子と武田梅龍に就て」『日本及日本人』大正一一年三月
- 「牛山遊記」『斯文』大正一一年四月
- 「談室雜考」『山東公論』大正一一年四月
- 「晏子の迹をたづねて」『山東談叢』第二集、歷下書院、大正一一年五月二八日
- 「管仲と東洋文化の新建設」『日本及日本人』大正一一年七月
- 「天方至聖実録年譜の刊行と袁國作に就いて」『国民新聞』大正一一年七月一八日
- 「晏子の故里と其墳墓」『斯文』大正一一年八月
- 天鐘迂人「常盤博士の支那佛教史蹟踏查報告書を觀て」『日本及日本人』大正一一年一〇月一日
- 「支那回教の發達と劉介廉」『日本及日本人』大正一一年一〇月
- 「稷山遊記」『斯文』大正一一年一二月
- 「黄檗の宗源を訪ねて——日支提携の根本義を思ふ」『日本及日本人』大正一二年一月
- 「再び水滸傳について」『日本及日本人』大正一二年二月
- 「代一水の濱に立ちて」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年二月二〇日
- 「神通寺から泰山を踰へて靈巖寺へ」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年二月二〇日
- 「泰山の進香と其祭神」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年二月二〇日
- 「小車行」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年二月二〇日
- 「長白山と陳仲子 附 范仲淹の事」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年二月二〇日
- 「華不注山と黄河」『山東談叢』第三集、歷下書院、大正一二年

- 二月二〇日
 「青島神社と赤山神社に就いて」『山東談叢』第三集、歴下書院、大正一二年二月二〇日
 天鐘生「回教徒と猪問題」『日本及日本人』大正一二年三月一日
 日
 「古代文化と支那の現在」『奉公』大正一二年七月
 「中川男の貴族院改造論に就いて」『日本及日本人』大正一二年八月二五日
 「皇國神道の大陸的使命」『日本及日本人』大正一二年一月二五日
 「西へ西へと」『日本及日本人』大正一三年一月二五日
 「西へ西へと(二)」『日本及日本人』大正一三年二月一日
 「神道と國民教育との關係を論ず」『奉公』大正一三年二月一日
 「西へ西へと(三)」『日本及日本人』大正一三年三月一日
 「西へ西へと(四)」『日本及日本人』大正一三年三月二五日
 「西へ西へと(五)」『日本及日本人』大正一三年四月一日
 「西へ西へと(六)」『日本及日本人』大正一三年四月二五日
 「西へ西へと(七)」『日本及日本人』大正一三年五月一日
 「西へ西へと(八)」『日本及日本人』大正一三年五月二五日
 「西へ西へと(九)」『日本及日本人』大正一三年六月一日
 「西へ西へと(十)」『日本及日本人』大正一三年七月一日
- 「西へ西へと(十一)」『日本及日本人』大正一三年七月二五日
 「西へ西へと(十二)」『日本及日本人』大正一三年八月一日
 「西へ西へと(十三)」『日本及日本人』大正一三年八月二五日
 「西へ西へと(十四)」『日本及日本人』大正一三年九月一日
 「西へ西へと(十五)」『日本及日本人』大正一三年九月二五日
 「メッカ巡礼(一)」『日本及日本人』大正一三年一〇月二五日
 「メッカ巡礼(二)」『日本及日本人』大正一三年十一月一日
 「メッカ巡礼(三)」『日本及日本人』大正一三年十一月二五日
 「メッカ巡礼(四)」『日本及日本人』大正一三年十二月一日
 「メッカ巡礼(五)」『日本及日本人』大正一三年十二月二五日
 「大亞細亞主義即日本主義即惟神道」『山東』大正一四年五月
 天鐘生「齊の覇業と管仲の經濟政策」『山東』大正一四年五月
 「泰山を中心として——王道文化の鳥瞰的觀察」『大東文化』昭和二年四月
 「霸道と平天下の業」『大東文化』昭和二年六月
 「古道照顔色」『大東文化』昭和二年九月
 「地方教育と政治」『日本新聞』昭和三年一月
 「唯此一路」『大東文化』昭和三年一月
 「日本の對外二大主張」『日本及日本人』昭和三年二月
 「教育の確立」『日本新聞』昭和三年三月

- 「支那に於けるイスラム概説」『大東文化』昭和三年四月
- 「行詰まりつゝある學界の展望」『日本新聞』昭和三年五月
- 「濟南事變と山東問題再燃」『日本及日本人』昭和三年五月
- 「支那時局の道統的考察と山東問題」『大東文化』昭和三年六月
- 「支那排日及排孔運動と東亜の將來」『足利學校講演』昭和三年
一二月
- 「回儒融通考」『大東文化』昭和三年一二月
- 「東洋文化の眞意義」『大東文化』昭和四年五月
- 「進興浪人の進路」『日本新聞』昭和四年六月
- 「富士山論」『大東文化』昭和四年九月
- 「書生の今昔」『日本新聞』昭和四年十一月
- 「回教徒の生活及メッカ巡礼に就て」『明治聖徳記念学会紀要』
三三、昭和五年四月、明治聖徳記念学会
- 「漢人種の陰陽思想と功利主義道德」『大東文化』昭和五年六月
- 「支那回教ト五教會同運動ノ一瞥」『日華學報』昭和六年一月九日
- 「酒」『大東文化』昭和六年二月
- 「葬といふことに就て」『大東文化』昭和六年四月
- 「煙」『大東文化』昭和六年四月
- 「支那といふ名稱につきて」『大東文化』昭和六年五月
- 「端午節を中心として」『大東文化』昭和六年六月
- 「自から任ずる者に待つ」『大東文化』昭和六年九月
- 「高天原雜記」『大日』昭和六年〜八年連載
- 「無邪思野雜記」『大日』昭和六年連載
- 「徳川公並に陸海軍大臣に致すの書（矢野恒太の非國民的運動
を論じて）」『日本及日本人』昭和六年一二月
- 「三嶽草堂雜記」『中央佛教』昭和七年連載
- 「伊壽蘭雜記」『大亞細亞』昭和八年連載
- 「亞細亞遍路」『大日』昭和八〜九年連載
- 「アラビヤの聖都メッカ巡礼記」『世界知識』誠文堂新光社、昭
和八年一二月
- 「一枝庵雜語」『大日』昭和九年連載
- 書籍
- 田中逸平『イスラム巡礼——白雲遊記』濟南…歷下書院、大正
一四年
- 「回教及回教問題」『日本宗教講座』東方書院、昭和一〇年六月
一五日
- 劉介廉漢訳、田中逸平訳『天方至聖實録』大日本回教協會出版
部、昭和一六年
- 未確認
- 「中國遊記」

- 「函館へ」
- 「神道と日本國民教育」
- 「元の膠着運河研究」
- 「齊の古城考」
- 「嶗山詳誌」
- 「支那古錢に就て」
- 「山東民政反對問題」
- 「小車行」
- 「管仲の墓を弔ふ」
- 「靈巖寺所在日本僧」
- 「徂徠より泰山へ」
- 「牛山の上に立ちて」
- 「山東問題と日本の將來」
- 「墓春雜記」
- 「苦々倒窮の説」
- 「泰山論」
- 「水滸傳と山東」
- 「泰山へ」
- 「齊南のメスヂダイ及ムスリマーに就て」
- 「靈巖寺の一夜」
- 「伏生墓を弔ふ」
- 「羅馬字に就て」
- 「華不注山と大小清河に就て」
- 「滿洲と青洲城」
- 「瑯耶臺の記」
- 「濟南諸泉源流考」
- 「漢の武梁祠に遊びて」
- 「日本とところどころ」
- 「王霸の辨と支那政體の將來」
- 「管子論」
- 「白雲遊記」
- 「賣本行脚」
- 「祖國遍路」
- 「支那問題か^{マヤ}亞細亞問題」
- 「亂裡の丁祭と王道國家の新建設」
- 「イスレームと大亞細亞主義」
- 「靈犀社雜記」
- 「支那語の發達と長崎通事に就て」
- 「半月雜記」